

2022 年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2022 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2022 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

◇有限のときに脆弱な身体とともに人は生き、その人たちの社会がある。その記録・記憶を集積し、考え、未来を構想する。その活動を行おうとする時、なすべきことはあまりに多く、個々人の研究の集積ではそれを行えない。だから研究所という組織・場所を作り、より効率的な運営の道を工夫してきた。

◇【「若手」に働いてもらい、経験を積んでもらう】今の常勤の教員たちは忙しい。しかし何がなされるべきかはわかる。方法を知り文献や人を知っている。そして客員研究員は 100 人を超えた。それらの人の知恵と技術を用い、そしてつなぎ、大学院生、所謂若手研究者が研究する環境を提供し具体的に指導してきた。その作業の多くがキャンパスに来る必要なく十分に可能であることの理解を求めてきた。また、今年度は RA を中心にイベントなどを運営するオンライン事務局を組織し、障害学会や東アジア 4 地域と合同でおこなう障害学国際セミナー、また支援テクノロジープロジェクトが進めた PLAN75 トークセッション企画に関わってきた。この取り組みは、国内のオンライン運営の最先端のやり方の知識や経験を集積するものでもある。

◇【現在を記録しそのまま集積していく】その日々の活動を論文にするまで待つのではなく、その日その日にサイトにあげる。シンポジウムの記録をすぐに文字にし、やはり公開する。その仕事自体がアーカイブの仕事でもある。2020 年度から継続して COVID-19 についての報道や言論を集めることもした。それはその時々の実用のためということもあるが、手立てを講じなければ何もかもがすぐに忘れられてしまうのだから、それ自体が現在をアーカイブしていく営みでもある。科学研究費および本学からの研究資金を用い、その活動を行なった。所蔵資料の本格的な目録作成を開始した。

◇【もとの、全体の記録を提供する】記録の全体を、例えばインタビューの全体を、むろん同意を得られた場合、掲載・公開していった。論文でしか証言を知ることができないのでは遅いもったいない。人が亡くなっていく速度に追いつけない。そしてもとの記録から様々な理解も生まれる。そうした材料・資源を集めて提供することを、自覚的・組織的に、行なっている。

◇【まずアジアの拠点となる】世界的にそうした試みは幾つか始まりつつあるが、アジアにはそうない。その先鞭をつける。例えば SNS 上の情報は古文書の類より時に保存が困難であり、そこに各国の政治・社会状況が加わる。やがてかの地の情勢が改善されるまで、留学生等の手も借りて、かえって現在だから保存しにくい情報を蓄積し、可能で妥当なら、公開する。そうして世界、とくに東アジアでの研究とこれからの社会に貢献する。多言語化は不十分だが、私たちのサイトの 2020 年度のアクセス数は年間約 3000 万。大学が運営する研究機関のサイトとしてはたいへん多くの人たちに利用してもらっている。

◇【身体がそこになくてもよいこと、あった方がよいこと、双方をご都合主義的でなく実現していく】COVID-19 流行をきっかけに手話を含む多くの言語を用いた国際的なオンラインの企画を 2020 年度から引き続き幾つも行っている。手話映像や字幕付のウェビナーの原型を作り、そのノウハウを利用し、より発展させた本研究所の企画や関係学会の大会が今後も実施される。こうしてその場に身体が不要であることはたしかにある。しかしそれがかけるべき手間を省くためになされてならないし、緊急対応だからとなされるべき対応が後回しにされてはならない。私たちは、具体的に、本学のキャンパス、建物から、足元のアクセシビリティの点検と改善から始め、COVID-19 後国内外の人たちを迎えるための近辺の宿の点検等も行なってきた。学内の各所に働きかけ、地域の営利・非営利組織に働きかけてきている。むろんそれは本研究所だけのことだけではない。ただ、このよしあしは別にその「核」がないものごととは前進しない。本研究はその「当座の」核の役を引き受けようとしている。

◇【場を、節約した上で、保持する】他に収蔵されているものはそこに委ねる、ここでは集めない、などできるだけ効率化ははかっている。しかし、研究所にしか集まらないものは多く、その割合はむしろ増えている。工夫はしている、それでも手狭になりつつあり、大学との調整を進めていく。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2023年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
運営委員	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	後藤 基行	先端総合学術研究科	准教授
	川端 美季	衣笠総合研究機構	准教授
	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授
	桜井 政成	政策科学部	教授
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授
	塩見 康博	理工学部環境都市工学科	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	教授
	富永 京子	産業社会学部	准教授
	中村 正	人間科学研究科・産業社会学部	教授
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	上席研究員
	永浜 明子	スポーツ健康科学部	准教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問
	姫野 友紀子	生命科学部	助教
	松尾 匡	経済学部	教授
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
村本 邦子	人間科学研究科	教授	
望月 茂徳	映像学部	教授	
安田 裕子	総合心理学部	教授	
やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授
の学内 若	① 専門研究員 研究員	岩田 京子	衣笠総合研究機構 補助研究員
		飯田 奈美子	衣笠総合研究機構 専門研究員

初任研究員	田邊 健太郎	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
	シン・ジュヒョン	衣笠総合研究機構	専門研究員
② リサーチアシスタント	安田 智博	衣笠総合研究機構/先端総合学術研究科	博士課程後期課程
③ 大学院生	山口 和紀	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	有松 玲	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	岩崎 弘泰	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	宇津木 三徳	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	欧陽 珊珊	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	各務 勝博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	岳 培栄	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	植木 是	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高 雅郁	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	勝又 栄政	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	岸田 典子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	北島 加奈子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	栗川 治	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	小井戸 恵子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	酒井 美和	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	佐草 智久	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	澤岡 友輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	篠原 史生	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	清水 一輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	焦 岩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	白杉 眞	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	孫 潔	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	高木 美歩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高橋 みどり	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	高橋 初	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	竹村 文子	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	舘澤 謙蔵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	谷口 俊恵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	種村 光太郎	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	陳 可為	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
	戸田 真里	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	中井 良平	先端学術総合研究科	博士課程後期課程
	長澤 奈緒子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	長島 史織	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
西田 美紀	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
坂野 久美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
兵頭 卓磨	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	
藤井 梓	先端総合学術研究科	博士課程後期課程	

		堀川 諭	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		増田 洋介	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		松浦 智恵美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		松本 圭古	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		森 康博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		ユ・ジンギョン	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		楊 雨双	社会学術研究科	博士課程後期課程
		高 雅郁	先端総合学術研究科	院生
		欧陽 珊珊	先端総合学術研究科	院生
		中井 良平	先端総合学術研究科	院生
		北島 加奈子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)		坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	日本学術振興会特別研究員 RPD
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		北村 健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師
		権藤 真由美	OIC 障害学生支援室	支援コーディネーター
		佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師
		藤原 信行	先端総合学術研究科	非常勤講師
		密田 逸郎	産業社会学部	非常勤講師
		村上 潔	先端総合学術研究科	非常勤講師
		吉野 靱	先端総合学術研究科	研究指導助手
客員協力研究員		浦田 悠	大阪大学全学教育推進機構教育 学習支援部	特任講師
		有田 啓子		
		頼尊 恒信	真宗大谷派聞稱寺	副住職
		中村 雅也	日本学術振興会特別研究員 (PD)	
		一宮 茂子		
		野口 友康	東京大学大学院総合文化研究科	学術研究員
		青木 慎太郎	大阪公立大学 都市科学・防災研 究センター	
		永山 博美	独立行政法人 労働者健康安全 機構 神戸労災病院	看護師
	保明 綾	Department of Modern Languages and Cultures School of Arts, Languages and Cultures University of Manchester (Assistant Professor) in Japanese Studies	Lecturer	

	山下 幸子	淑徳大学総合福祉学部	教授
	松枝 亜希子		
	横田 陽子		
	篠原 眞紀子	日本福祉大学	専任講師
	有吉 玲子		
	河合 翔		
	村上 潔	立命館大学大学院先端総合学術 研究科	非常勤講師
	細谷 幸子	国際医療福祉大学 成田看護学 部	教授
	葛城 貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネ ット	
	佐藤 量	立命館大学	非常勤講師
	玉井 隆	特定非営利活動法人アフリカ日 本協議会	共同代表
	堀 智久		
	能勢 桂介	長野保険医療大学	非常勤講師（倫理 学担当）
	孫 美幸		
	吉村 夕里	武庫川女子大学大学院文学研究 科臨床心理学専攻	非常勤講師
	宮原 資英	特定非営利活動法人 Japan Centre for Evidence Based Practice	社員
	藤岡 毅	藤岡毅法律事務所	弁護士
	鈴木 陽子	沖縄愛楽園交流会館	学芸員
	篠木 涼	公益財団法人 稲盛財団	職員
	山本 由美子	公立大学法人大阪 大阪府立大 学 人間社会システム科学研究科・	准教授
	大久保 豪	株式会社 BMS 横浜	代表取締役
	萩原 三義		
	井上 武史		
	太田 啓子	大阪医療センター附属看護学校 /阪奈中央看護専門学校	非常勤講師
	土肥 いつき	京都府立城陽高校	教諭
	川田 薫		
	仲尾 謙二		
	栄 セツコ	桃山学院大学 社会学部 社会福 祉学科	専任講師
	松岡 弘之	岡山大学学術研究院 社会文化 科学学域	講師

	末田 邦子	愛知淑徳大学	准教授
	谷田 朋美	毎日新聞大阪編集局兼企画業務部	記者
	瀬山 紀子	明治大学	兼任講師
	加藤 有希子	埼玉大学大学院人文社会科学研究所	准教授
	志水 洋人	エジンバラ大学アッシャー研究所	(日本学術振興会海外特別研究員)
	橋本 明	愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科	教授
	宮崎 宏志	岡山大学(学術研究院教育学域)	准教授
	尾上 浩二	特定非営利活動法人 DPI 日本会議	副議長
	長谷川 唯		
	貞岡 美伸	京都光華女子大学健康科学部看護学科 母性看護学・助産学	教授
	萩原 浩史	社会福祉法人加島友愛会 支	援課長
	河口 尚子	中京大学 名古屋市立大学他	非常勤講師
	李 金灯 (アルタンジョラー)	国立民族学博物館	外来研究員
	金 政玉	NPO 法人 ソーシャルアクション	パートナーシップ職員
	角崎 洋平	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	山田 裕一	学校法人松本学園 松本短期大学 幼児保育学科	助教授
	平岡 久仁子	社会福祉法人寿栄会	理事
	伊東 香純	中央大学	日本学術振興会特別研究員 (PD)
	安積 宇宙	Donald Beasley Institute -	Junior Research Fellow
	丹波 博紀	大正大学総合学修支援機構 DAC	任期制専任講師
	永田 美江子	日本大学短期大学部ビジネス教養学科	教授
	窪田 好恵		
	Calderón Almendros Ignacio	University of Malaga, Spain	Associate Professor
	Ruskus Jonas	Professor at the Department of Social Work, Vytautas Magnus University, Lithuania; Expert-member, Vice-chair of the Committee on the Rights of Persons with Disabilities of the United Nations	Professor

密田 逸郎	立命館大学 産業社会学部	非常勤講師
Degener Theresia Maria	Evangelische Hochschule RWL, (Protestant University of Applied Sciences) Professor of Law and Disability Studies	Professor
樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	准教授
小林 勇人	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
Bookman Mark Ross	東京大学 東京カレッジ	特任研究員
川口 有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
中根 成寿	京都府立大学公共政策学部福祉社会学科	准教授
三島 亜紀子	同志社大学	嘱託講師
藤原 良太	柏市役所こども部こども福祉課	主事
柴垣 登	岩手大学教育学部	教授
利光 恵子	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ「相談室」 女性のからだ性と性の相談	相談員
勝井 久代	Associate Professor in Disability Studies, Helsinki University, Finland	Associate Professor
鍾 宜錚	大谷大学真宗総合研究所東京分室	PD 研究員
町田 奈緒士	名古屋大学男女共同参画センター	特任助教
土橋 圭子		
駒澤 真由美	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 プロジェクトマネージャー	研究指導助手
鈴木 雅子		
De Antoni Andrea	京都大学人間・環境学研究科	特定准教授
姜 文姫	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程	
番匠 健一	広島国際学院大学情報文化学部 現代社会学科	准教授
岡本 晃明	京都新聞社 東京支社	編集部長
吉田 幸恵	兵庫医療大学 共通教育センター	講師
田中 真美	はしづめ内科ソーシャルワーカー、京都華頂大学	非常勤講師
高橋 涼子	金沢大学人間社会研究域人間科学系	教授

稲場 雅紀	アフリカ日本協議会 国際保健部門	ディレクター
大野 光明	滋賀県立大学 人間文化学部 人間関係学科	准教授
甲斐 更紗	一橋大学保健センター障害学生 支援	コーディネータ
笹谷 絵里	花園大学社会福祉学部児童福祉 学科	専任講師
金城 美幸	愛知学院大学文学部	非常勤講師
田邊 健太郎	立命館大学大学院先端総合学術 研究科	非常勤講師
長崎 潔	J A厚生連松阪中央総合病院	看護師
安部 彰	三重県立看護大学看護学部	准教授
中倉 智徳	千葉商科大学 人間社会学部	准教授
川野 久美子	特定非営利活動法人ココペリ・ ワン・ツー・ワン (NPO ココペリ 121)	一般社員
谷村 ひとみ		
中尾 麻伊香	広島大学人間社会科学研究科	准教授
松本 理沙	北陸学院大学人間総合学部子ど も教育学科	講師
榊原 賢二郎	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部	第四室長
原 昌平	相談室ぱどる／ぱどる行政書士 事務所	代表
Hovhannisyán Astghik	ロシア・アルメニア大学人文学 部世界史・地域研究学科	上級講師
郭 貞蘭 (クァク ジョン ナン)	韓国トンクック大学人口と社会 協同研究所研究	教授
林 徳栄 (イム ドクヨ ン)	韓国保健社会研究院	副研究委員
藤木 和子	法律事務所シブリング代表弁護 士	副研究委員
桶河 華代	宝塚大学 看護学部	准教授
Bharat Negi (バラット ネギ)	神戸大学	Post-Doctoral Research Fellow
後藤 悠里	福山市立大学都市経営学部英語	特任講師
橋口 昌治	大谷大学社会学部現代社会学科	任期制講師
高橋 慎一	特定非営利法人日本自立生活セ ンター自立支援事業所	常勤職員
吉野 毅	立命館大学先端総合学術研究科	研究指導助手
桐原 尚之	同志社大学	日本学術振興会特 別研究員 PD

	高阪 悌雄	青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科	教授
	奥山 佳子	ハワイ大学 日本研究科	教授
	矢吹 康夫		
	山本 勝美	東京都衛生局	保健所心理相談員 協議会会長
	古賀 真子	コンシューマネット・ジャパン (現特定非営利活動法人コンシューマネット・ジャパン)	理事長
	栗原 敦	MMR (新3種混合ワクチン) 被害児を救援する会	事務局長
	臼井 久実子	障害者欠格条項をなくす会	事務局長
	黄 信者		
	矢野 亮	公立大学法人長野大学社会福祉学部	教授
その他の学外者	張 恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	張 万洪	国立武漢大学法学院	教授
	吳 達明	香港大学 School of Professional and Continuing Education	准教授
	青木 千帆子		非常勤講師
	青山 薫	神戸大学	客員研究員
	天田 城介	中央大学	教授
	有菌 真代	龍谷大学	職員
	安藤 道人	立教大学	非常勤講師/ 非常勤講師 プロジェクト研究員
	市野川 容孝	東京大学	教授
	岩永 理恵	日本女子大学	教授
	田島 明子	湘南医療大学	教授
	高阪 悌雄	名寄市立大学	客員研究員
	田中 恵美子	東京家政大学	看護師
	田中 耕一郎	北星学園大学	准教授
	土屋 葉	愛知大学	客員研究員
	天畠 大輔	中央大学	日本学術振興会特別研究員 PD
	廣野 俊輔	同志社大学	准教授
	深田 耕一郎	女子栄養大学	教授
	堀 智久	名寄市立大学	客員研究員
	三井 さよ	法政大学	教授
	矢野 亮	長野大学	
	山下 幸子	淑徳大学	教授
	渡辺 克典	徳島大学	准教授
	山下 幸子	淑徳大学	教授

	芝田 純也	新潟福祉大学	教授
	安 孝淑	先端総合学術研究科修了生	2018 年度学位取得
研究所・センター構成員	計 236 名	(うち学内の若手研究者 計 55 名)	

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023 年 3 月 31 日時点)
また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩 真也	人命の特別を言わず/言う	単著	2022 年 12 月	筑摩書房		
2	立岩 真也	『良い死/唯の生』	単著	2022 年 12 月	筑摩書房, ちくま学芸文庫		
3	立岩 真也	『人命の特別を言わず/言う 補註』	共著	2022 年 12 月	Kyoto Books		
4	立岩 真也	『生死の語り行い・3——1980 年代、2000 年以降』	共著	2022 年 12 月	Kyoto Books		
5	小川 さやか	旅するモヤモヤ相談室 カルテ No.1 「私、自分に自信がないんです……」文化人類学@タンザニア	分担執筆	2023 年 3 月	世界思想社	木谷百花編 小川さやか他 11 名	
6	小川 さやか	失われた“雑談”を求めて	分担執筆	2022 年 12 月	タパブックス	辻本力編 小川さやか	PP. 21~21
7	小川 さやか	自由に生きるための知性とはなにか	分担執筆	2022 年 9 月	晶文社	立命館大学教養教育センター編 小川さやか・美馬達哉	PP. 47-175
8	小川 さやか	ベストエッセイ ともに歩けば	分担執筆	2022 年 8 月	光村図書出版	日本文藝家協会編	PP. 180~183
9	富永 京子	民主主義に未来はあるのか?	分担執筆	2022 年 8 月	サビエンティア 65	山崎 望	
10	美馬 達哉	『学会会議叢書 30「人間の尊厳」とは—コロナ危機を経て—』	分担執筆	2023 年 3 月	日本学術協力財団	公益財団法人日本学術協力財団編	人工呼吸器のモチ期と人間の尊厳—閉じ込め症候群の人びとは何を感じたか—、
11	美馬 達哉	新型コロナウイルス感染症と医療資源配分、『尊厳と生存』	分担執筆	2022 年 5 月	法政大学出版局	加藤泰史, 後藤玲子	第二章 新型コロナウイルス感染症と医療資源配分
12	後藤 基行	医学史事典	分担執筆	2022 年 4 月	丸善出版	日本医史学会編	PP. 644~645 「医学史と経済学」
13	松原 洋子	「おわりに」『自由に生きるための知性とはなにか——リベラルアーツで未来をひらく』	単著	2022 年 9 月	晶文社	立命館大学教養教育センター 編	
14	宮脇 正晴	入門知的財産法 [第 3 版]	共著	2023 年 2 月	有斐閣	平嶋竜太、蘆立順美、宮脇正晴	PP. 1~20, PP. 233~331
15	姫野 友紀子	科学と伝統のあわいの身体	共著	2022 年 6 月	伝統文化 研究編	京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎	

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
-----	----	-----------	---------	------	---------------	-----------	------	------

1	長瀬 修	障害者権利条約について日本への初めての勧告	単著	2023 年 1 月	TOKYO 手をつなぐ、581 号		PP. 14~17	
2	川端 美季	情報アクセシビリティとセーフスペース		2022年8月	立命館生存学研究、6		PP. 67~71	
3	川端美季	まちをきれいにする・ひとをきれいに する		2022年7月	建築討論			
4	川端 美季	清潔の指標：習慣と国民性が結びつけられるとき-緊急特集 感染/パンデミック：新型コロナウイルスから考える		2020年5月	現代思想、48 巻 7 号		PP. 170~176	
5	富永 京子	『書くこと』による読者共同体の生成メカニズム——若者雑誌『ビックリハウス』の投稿を事例として	単著	2022年8月	ソシオロジ 67(1)		PP. 99~115	
6	小川 さやか	環太平洋文明研究センターのこれから——災害・食糧危機に強い、レジリエンスがある社会の創造を目指して	単著	2023年3月	雄山閣、環太平洋文明研究、(7),		PP. 78~82	
7	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第 9 回 人生という旅の豊かな人間関係	単著	2023年3月	朝日新聞出版、28(3)		PP. 42~50	
8	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第 8 回 情報化時代の武器になる、タンザニア商人のパーソナルなネットワーク	単著	2023年2月	朝日新聞出版、28(2)		PP. 51~59	
9	小川 さやか	目利き 48 人が選ぶ 2022 年私のオススメ新書	単著	2023年2月	中央公論 (3 月号) 137(3)			
10	小川 さやか	書評『大いなる錯乱 気候変動と<思考しえぬもの>』アミタヴ・ゴーシュ著	単著	2022 年 12 月	読売新聞朝刊 読売新聞社			
11	小川 さやか	書評『ネアンデルタール』レベッカ・ウラッグ・サイクス著	単著	2022 年 12 月	読売新聞朝刊 読売新聞社			
12	小川 さやか	街の気分と思考「喧騒から抜け出すために」	単著	2022 年 12 月	新潮 (12 月号)、119(12)		PP. 208~211	
13	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第 6 回 タンザニア商人が教えてくれた現の抜かし方	単著	2022 年 12 月	朝日新聞出版、27(12)		PP. 23~31	

14	小川 さやか	書評『光を灯す男たち』エマ・ストーンクス著	単著	2022年11月	読売新聞朝刊、読売新聞社		PP. 27	
15	小川 さやか	書評『手数料と物流の経済全史』玉木俊明 読売新聞朝刊	単著	2022年11月	現代思想 48(11)		PP. 10	
16	小川 さやか	時評2022「増える遭難、登山の魅力」 中央公論(2022年12月号) 136(12), 14-15頁 (単著)	単著	2022年11月	中央公論(2022年12月号)、136(12)		PP. 14~15	
17	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第5回 他者に与えて、生の痕跡を残す	単著	2022年11月	朝日新聞出版、27(9)		PP. 10~18	
18	小川 さやか	書評『暴力のエスノグラフィ』ティモシー・パチラット著	単著	2022年10月	読売新聞朝刊		PP. 12	
19	小川 さやか	時評2022「新型コロナで花開くギグ・エコノミー」	単著	2022年10月	中央公論(2022年11月号)		136(11), 14-15	
20	小川 さやか	書評 抜群のセンスが発揮された「語学探検記」高野秀行『語学の天才まで1億光年』	単著	2022年10月	新潮社 Foresight (オンライン)			
21	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第4回 迷惑をかけあうことから広がる家族の形	単著	2022年10月	朝日新聞出版、27(10)		PP. 22~30	
22	小川 さやか	書評『略奪の帝国 東インド会社の興亡 上・下』ウィリアム・ダルリンプル著	単著	2022年10月	読売新聞朝刊、読売新聞		PP. 10	
23	小川 さやか	書評 片雪蘭著『不確実な世界に生きる難民—北インド・ダラムサラにおけるチベット難民の仲間家計と生計戦略の民族誌』	単著	2022年9月	アジア経済 アジア経済研究所、64(3)		PP. 73~76	
24	小川 さやか	時評「[その他]に分類される言語の毒」	単著	2022年9月	中央公論(2022年10月号)、中央公論新社、136(10)		PP. 14~15	

25	小川 さやか	書評『遠い声をさがして 学校事故をめぐる<同行者>たちの記録』石井美保著	単著	2022年9月	読売新聞朝刊、読売新聞社		PP. 13	
26	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第3回 仲間を悪者にならない知恵	単著	2022年9月	朝日新聞出版、27(9)		PP. 10~18	
27	小川 さやか	書評『創造性をデザインする』牧野智和著	単著	2022年9月	読売新聞朝刊、読売新聞社		PP. 12	
28	小川 さやか	全てが「ネット越し」の社会の落とし穴... コロナ対策を失敗させた「過剰可視化」の発想	共著	2022年8月	PHP オンライン衆知 WEB Voice (PHP) PHP オンライン衆知 WEB	小川さやか・與那覇潤		
29	小川 さやか	書評『トリアスロンの哲学』ラファエル・ヴェルシエール著	単著	2022年8月	中央公論 (2022年9月号)、136(9)		PP. 14~15	
30	小川 さやか	街の気分と思考 見知らぬ地で得る安心感	単著	2022年8月	新潮 (8月号)、株式会社新潮、119(8)		PP. 240~243	
31	小川 さやか	書評『大絶滅―遺伝子が悪いのか運が悪いのか?』デイビッド・M・ラウプ著	単著	2022年8月	読売新聞朝刊		PP. 13	
32	小川 さやか	2030年のコミュニケーションに必要なこと	単著	2022年8月	建築と社会、一般社団法人日本建築協会、103(1)		PP. 28~29	
33	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第2回 警察権力が機能不全な社会	単著	2022年8月	朝日新聞出版、27(8)		PP. 12~19	
34	小川 さやか	書評『大衆の狂気 ジェンダー・人種・アイデンティティ』ダグラス・マレー著	単著	2022年8月	読売新聞朝刊		PP. 12	
35	小川 さやか	上半期の3冊 (石井美保ほか編『官能の人類学』ジリアン・テット『アンソロビジョン』仲尾友貴恵『不揃いな身体でアフリ	単著	2022年7月	週刊読書人、株式会社読書人、3449		PP. 6	

		カを生きる』						
36	小川 さやか	時評 2022 「移民・難民政策と日本のタンザニア人」	単著	2022年7月	中央公論 (2022年8月号)、中高公論新社、136(8)			PP. 14~15
37	小川 さやか	「なぜ人は人を助けるのか」の人類学無条件の条件 第1回 あるべきものが存在しない社会	単著	2022年7月	朝日新聞出版、27(7)			PP. 12~19
38	小川 さやか	書評『アセンブリ 新たな民主主義の編成』アントニオ・ネグリとマイケル・ハート	単著	2022年7月	読売新聞朝刊			PP. 15
39	小川 さやか	書評『リバタリアンが社会実験してみた町の話』	単著	2022年6月	読売新聞朝刊			PP. 12
40	小川 さやか	時評 2022 「Society5.0と中途半端なスマートさ」	単著	2022年6月	中央公論 (2022年7月号)、中央公論社、136(7)			PP. 22~23
41	小川 さやか	言葉の先の想像力	単著	2022年6月	潮 (6月号)、株式会社潮出版社、(760)			PP. 28~30
42	小川 さやか	書評『共有地をつくる わたしの「実践私有批判」』平川克美著	単著	2022年6月	読売新聞朝刊			PP. 12
43	小川 さやか	「タンザニア商人に学ぶ人間はみな Living for Today」	単著	2022年5月	『Wedge』2022 6月号、株式会社ウェッジ、34(6)			PP. 26~29
44	小川 さやか	時評 2022 「カッコよさの多様性」	単著	2022年5月	中央公論 (2022年6月号)、中央公論新社、136(6)			PP. 22~23
45	小川 さやか	過剰都市化社会を乗り越える	共著	2022年5月	Voice(令和4年6月号)、PHP 研究所、(534)	小川さやか・與那覇潤		PP. 114~123
46	小川 さやか	贈与と失敗がつくる社会	共著	2022年5月	ゲンロンβ、株式会社ゲンロン、72	小川さやか・東浩紀		PP. 4~23
47	小川 さやか	時評 2022 「国境を越える草の根の営み」	単著	2022年4月	『中央公論』2022年5月号、中央公論新社、136(5)			PP. 14~15
48	小川 さやか	人の結びつきはどうあるべきか 日本社会を緩めるヒント	共著	2022年4月	公研、公益産業研究調査会、704	小川さやか・松沢裕作		PP. 60~75
49	松原 洋子	「新優生学と産む(女)の行方」	単著	2022年12月	シモーヌ、現代書館、7			PP. 93~100
50	宮脇 正晴	商標法の今日的課題 -研究者の視点から	単著	2023年2月	小林十四雄編集代表『商標の法律実務』			PP. 27~37
51	宮脇 正晴	米国における知財の	単著	2022年12月	高林龍三・三村量一・上野達弘			PP. 208~211

		動き(商標法・不正競争法)			編『年報知的財産法 2022-2023』			
52	宮脇 正晴	指定商品やその容器の立体的形状のみからなる商標の商標法3条1項3号・同条2項該当性	単著	2022年4月	L&T, (95)	PP. 40~48		
53	塩見 康博	Data-driven modeling of car-following behavior on freeways considering spatio-time effects: a comparison of different neural network structures	共著	2023年3月	International Journal of Intelligent Transportation Systems Research (Springer)	Masahiro Kinoshita and Yasuhiro Shiomi		
54	塩見 康博	オランダ・デルフトから展望する未来の道路空間	単著	2022年7月	運輸と経済	塩見康博		
55	塩見 康博	都市間高速道路における交通状態別事故リスクの経年変化に関する研究	共著	2022年5月	土木学会論文集	松ヶ谷玲弥, 塩見康博, 邢健, 糸島史浩, 甲斐穂高		
56	姫野 友紀子	人工呼吸器のモチ期と人間の尊厳——閉じ込め症候群の人は何を感じたか	共著	2023年1月	「人間の尊厳」とは — コロナ危機を経て — 日本学術協力財団、30	美馬達哉, 姫野友紀子, 川口有美子, 鍾宜錚, 柏崎郁子, 田中美穂	PP. 147~175	
57	姫野 友紀子	Gradient-based parameter optimization method to determine membrane ionic current composition in human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes	共著	2022年11月	Scientific Reports Nature Publishing Group、12(1)	Hirohiko Kohjitani, Shigeya Koda, Yukiko Himeno, Takeru Makiyama, Yuta Yamamoto, Daisuke Yoshinaga, Yimin Wuriyanghai, Asami Kashiwa, Futoshi Toyoda, Yixin Zhang, Akira Amano, Akinori Noma, Takeshi Kimura	PP. 19110	
58	欧陽 珊珊 (OUYANG)	「書評: Sexuality, Disability, and	単著	2023年3月	コア・エシックス 19		193-195 頁	

	Shanshan)	Aging: Queer Temporalities of the Phallus]						
59	欧陽 珊珊 (OUYANG Shanshan)	「残酷な台湾における障害のある性的少数者の実践」	共著	2023年3月	『クィア・スタディーズをひらく3		108-135 頁	
60	小井戸 恵子	脳性小児麻痺に治療として行われた大脳半球剔除術	単著	2023年3月	Core Ethics		19, 73-84 頁	
61	長島 史織	性の医療化と性規範に抵抗して性的無関心をめぐるアセクシュアル当事者団体の議論に関する考察	単著	2022年12月	国際ジェンダー学会誌(20)		65-82 頁	
62	栗川 治	『「軽減労働同一賃金」を障害者雇用において可能にする条件—障害のある教員の事例を通しての異別処遇・同等待遇の検討』	単著	2023年3月	『Core Ethics』19号、立命館大学 大学院先端総合学術研究科		pp.61-72.	有
63	栗川 治	「点字図書館運動勃興期における『姉崎文庫』の設立と郵送貸出による事業展開—柏崎の姉崎惣十郎と新潟県盲人協会による情報保障の実践の歴史的意義」	単著	2022年12月	『社会事業史研究』62号、社会事業史学会		pp.75-89	有
64	栗川 治	「座談会 音で読む『世界』—視覚障害者と情報保障」	共著	2022年11月	『世界』 岩波書店	松本道子・藤田 晶子・堀江達朗	pp.260-267	無
65	栗川 治	「障害者の当事者運動史の研究—教員・労働・情報保障」	単著	2022年9月	『おきな草』52号 放送大学人文研究友の会、		pp.11-16	無
66	中井 良平	コロナ禍における生存学研究所の情報保障について—障害学国際セミナー編	単著	2022年6月	立命館生存学研究6			
67	藤井 梓	きょうだいであり続けるための家族実践—障害者家族における成人期きょうだいの生活史から	単著	2023年3月	Core Ethics 19	149-161 頁		
68	増田 洋介	障害のある者となない	単著	2023年3月	総合福祉研究 (27),		95-105 頁	

		者との共生をめぐる課題としての「障害児いじめ」に関する一考察-28歳で小学校に入学した脳性麻痺者・八木下浩一のいじめ観を通して		月				
69	安田 智博	コロナ禍における生存学研究所の情報保障について障害学会編	単著	2022年8月	立命館生存学研究 6			無
70	山口 和紀	盲学校における学生運動の様相東京教育大学附属盲学校における事例の再検討	単著	2023年3月	Core Ethics 19			

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	富永 京子	数理社会学会シンポジウム「不平等と政治」パネリスト	2023年3月	数理社会学会 第74回大会	
2	富永 京子	日本政治学会パネル「大衆デモと民主主義の行方」コメンテーター	2022年10月	2022年度 日本政治学会総会・研究大会	
3	富永 京子	The Process of Forming Activist Identity under	2022年6月	Mobilization Conference	
4	富永 京子	Who Meets the Perfect Standard of a 'Real'	2022年6月	AFPP Conference 2022	
5	小川 さやか	Session 3 Reconfiguring Family and the Emergence of New Forms	2023年3月	International Symposium Family Potential in Unertain Times (特別研究「不確実性の時代における家族の潜在力—モビリティ、テクノロジー、身体	
6	小川 さやか	冒険を可能にする条件——商業と自前のセーフティネットの新たなつながりを求めて	2023年3月	公開シンポジウム「アフリカの冒険的現代——偶然化に託す希望のチカラ」	
7	小川 さやか	自らの系譜を打ち立てる—アジアとアフリカ間の SNS を介した交易を事例に	2023年1月	東ユーラシア研究プロジェクト2022年度全体集会	
8	小川 さやか	人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリエンス強化のための学際的研究拠点	2022年7月	第4期R-GIRO研究プログラム4プロジェクト合同シンポジウム「技術と人間の調和を超学際的に考える」	
9	後藤 基行	優生手術への精神科医の関与—学会員を対象とした質問紙調査—(委員会シンポジウム『旧優生保護法と精神科医』)	2022年6月	第118回日本精神神経学会学術総会	

10	松原 洋子	「断種法としての旧優生保護法における強制不妊」	2022年11月	第34回日本生命倫理学会年次大会 大会企画シンポジウム II 強制不妊はどのような人権 / 生命倫理の問題か — 「優生学」 および 「性別の自己決定」 における 「身体の完全性」・「尊厳」・ 「リプロダクティブ・ライツ」 保護の観点から	
11	松原 洋子	「旧優生保護法の歴史と倫理的課題」	2022年8月	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	
12	宮脇 正晴	住宅地区の著作物性と保護範囲	2022年10月	著作権法学会著作権判例研究会	
13	塩見 康博	交差点における特殊車両の折進条件の自動判定アルゴリズム	2022年12月	第20回 ITS シンポジウム	志野有・塩見康博
14	塩見 康博	強化学習を用いた高速道路における制限速度制御手法の構築	2022年11月	第66回 土木計画学研究発表会	篠原祐吾, 花房比佐友, 塩見康博
15	塩見 康博	Path planning model を用いた特殊車両の折進可否判定の自動化	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	志野有・塩見康博
16	塩見 康博	ヒアリング調査に基づく地方自治体における特殊車両通行許可制度の実務課題に関する研究	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	
17	塩見 康博	交差点諸元による特殊車両の折進可否判定モデルの構築	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	
18	塩見 康博	高速道路における自動運転に対応した道路空間整備の費用便益分析	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	
19	塩見 康博	高速道路合流部における自動運転車両の戦略的制御	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	
20	塩見 康博	都市高速道路における車線変更行動による周辺車両の運転挙動に与える影響に関する研究	2022年	第66回 土木計画学研究発表会	
21	姫野 友紀子	A mathematical model calculating transport of solutes and water at an epithelial cell membrane and tight junction in renal proximal tubule	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Yuto Kunimasa, Yukiko Himeno, Taiki Tahara, Taiki Nishizuka, Junichi Taniguchi, Akira Amano
22	姫野 友紀子	A mathematical model for explaining an impact of	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Yuttamol Muangkram, Saya Ito Yukiko Himeno, Akira Amano

		genetic mutations on ionic currents of photoreceptor			
23	姫野 友紀子	Analysis of Mechanism which determines Ca ²⁺ Ion Concentration Equilibrium in Ventricular Myocyte Mathematical Model	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Ryosuke Hara, Koki Koyama, Yukiko Himeno, Akira Amano
24	姫野 友紀子	Application of the parameter optimization method to the selective IKr-block induced by E-4031 in the human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes (hiPSC-CMs)	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Yukiko Himeno, Yixin Zhang, Futoshi Toyoda, Hirohiko Kohjitani, Akinori Noma, Amano Akira
25	姫野 友紀子	Development of a parameter optimization method to determine ionic current composition of a cardiomyocyte model	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Yixin Zhang, Yukiko Himeno, Futoshi Toyoda, Hirohiko Kohjitani, Akinori Noma and Akira Amano
26	姫野 友紀子	Development of a state transition model to reproduce the inhibitory effect of E-4031 on hERG channels	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Yuna Nakanishi, Azumi Sagehashi, Hiroto Nomura, Yukiko Himeno, Futoshi Toyoda, Akira Amano
27	姫野 友紀子	Effect of Voltage-dependence and Reaction Rate of Ion Binding Process of Mathematical Model of Na/Ca Exchanger (NCX) Considering Thermodynamics Constraints	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	OU Shaocong, Keika Oyama, Masaaki Furukawa, Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano
28	姫野 友紀子	Estimation of time course of drug action by PK/PD model using a mathematical model of guinea pig ventricular myocyte implemented with IKr inhibition by E-4031	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Azumi Sagehashi, Yuna Nakanishi, Hiroto Nomura, Yukiko Himeno, Akira Amano
29	姫野 友紀子	Ionic mechanisms of repolarization of action potentials studied in a	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会	Suzuka Enomoto, Yukiko Himeno, Hara Ryosuke, Hiroto Nomura, Akinori Noma, Amano Akira

		one-dimensional array composed of human-ventricular cell models			
30	姫野 友紀子	ヒト心室筋細胞モデルと細胞一次元配列モデルでの活動電位の再分極への IK1 の寄与	2023 年 3 月	日本生理学会第 100 回記念大会	野村裕斗、榎本玲佳、姫野友紀子、天野晃
31	姫野 友紀子	ヒト心室筋細胞モデルのイオン輸送タンパク活性化による Ca ²⁺ 動態変化のメカニズム	2023 年 3 月	日本生理学会第 100 回記念大会	堀野未祐、實近明莉、中川敦博、姫野友紀子、天野晃
32	姫野 友紀子	Inhibition of transient outward K ⁺ current: potential prevention of reentrant arrhythmia developments in long QT syndromes	2022 年 12 月	日本薬理学会	Kunichika Tsumoto, Takao Shimamoto, Yuma Aoji, Yuichi Kuda, Mamoru Tanida, Yukiko Himeno, Akira Amano, Yasutaka Kurata
33	姫野 友紀子	IKr 阻害作用を導入したモデル心室筋細胞数理モデルを用いた PK/PD モデル構築による薬物作用の時間経過の推定	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	佐下橋杏実、中西優奈、野村裕斗、姫野友紀子、天野晃
34	姫野 友紀子	Pathophysiological changes in electrophysiological properties due to mutations in ionic current-encoding genes of photoreceptor: A mathematical model	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	ムガングラム ヌッタモル、伊藤さや、姫野友紀子、天野晃
35	姫野 友紀子	ヒト心室筋細胞の一次元ユニットモデルを用いた再分極メカニズムに関する考察	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	榎本玲佳、姫野友紀子、原亮介、野間昭典、天野晃
36	姫野 友紀子	運動時の骨格筋におけるヘキソキナーゼフラックス増加に必要な安静時および運動時細胞内グルコース濃度の推定	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	小林千夏、姫野友紀子、天野晃
37	姫野 友紀子	心筋細胞モデルのイオン電流組成を決定するパラメーター最適化法の開発	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	張芸馨、姫野友紀子、豊田太、野間昭典、天野晃
38	姫野 友紀子	心室筋細胞モデルにおける細胞内 Ca ²⁺ イオン平衡濃度決定メカニズムの解析	2022 年 11 月	第 114 回近畿生理学談話会	原亮介、小山滉貴、姫野友紀子、天野晃
39	姫野 友紀子	心室筋細胞一次元配列モデルを用いた再分極伝播の可	2022 年 10 月	生理研研究会 (比較統合生理学的観点からの循環生理の解析)	姫野友紀子、榎本玲佳、原亮介、野間昭典、天野晃

		能性に関する検討			
40	姫野 友紀子	哺乳類の光受容体における光応答の電気生理学的解析：数学モデル	2022年8月	計測自動制御学会	Yuttamol Muangkram, 伊藤さや, 姫野友紀子, 天野晃
41	姫野 友紀子	心室筋細胞数理モデルにおける細胞内イオン濃度平衡点決定メカニズム	2022年6月	第61回日本生体医工学会大会2022	原亮介, 小山滉貴, 姫野友紀子, 天野晃
42	欧陽 珊珊 (OUYANG Shanshan)	Breaking Windows and Mirrors: The LGBTQ+/	2022年11月	Disability Community's Representation in Japanese Media (1st International Conference on Disability Inclusion)	
43	勝又 栄政	トランスジェンダー男性の子を持つ父親の“経験”	2023年3月	GID (性同一性障害) 学会 第24回研究大会・総会	
44	栗川 治	「新潟県下各盲聾学校協議会と点字図書館運動——中越盲聾学校・姉崎惣一郎と新潟盲聾学校・山中樵をめぐって」	2022年10月	日本盲教育史研究会、日本盲教育史研究会第11回研究会、東京・日本点字図書館	
45	栗川 治	『『できない』と『できる』のせめぎあい——1970年代中途視覚障害教員の復職運動における労働・能力観の問い直し』	2022年9月	障害学会、障害学会第19回大会	
46	高橋 初	在宅血液透析 (HHD) 移行による臨床効果の検討	2022年12月	第49回千葉県透析研究会	
47	高橋 初	呼吸治療専門臨床工学技士の意義	2022年11月	第2回関東甲信越臨床工学会及び第5回神奈川県臨床工学会	
48	高橋 初	「血液浄化関連専門臨床工学技士、認定血液浄化関連臨床工学技士」の現状と役割、そして今後の展望	2022年7月	第67回日本透析医学会学術集会・総会	
49	高橋 初	在宅血液透析における臨床工学技士の今までとこれから	2022年5月	第32回日本臨床工学会及び2022年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会	
50	高橋 初	在宅血液透析 (HHD) 移行による臨床効果の検討	2022年5月	第32回日本臨床工学会及び2022年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会	
51	高橋 初	在宅血液透析 (HHD) 移行による臨床効果の検討	2022年4月	第48回日本血液浄化技術学会学術大会	
52	竹村 文子	「障害のある人もない人も共に働く場とは」	2022年12月	院生プロジェクト「障害者と労働」研究会 2022年度公開セミナー	
53	兵頭 卓磨	要配慮者利用施設における避難確保計画に関する現行指針への若干の問題提起 自動車椅子使用の障がい当事者職員の立場から	2022年9月	障害学会第19回大会	

54	増田 洋介	1980 年代の埼玉におけるケア付き住宅建設運動埼玉県独自事業の「生活ホーム」実現までの推移	2022 年 9 月	障害学会第 19 回大会	
55	山口 和紀	SNS 運動の跡を伝えるそのアーカイブ構築に向けた課題整理	2022 年 11 月	第 95 回日本社会学会大会	
56	山口 和紀	「7・7 華青闘告発」と楠敏雄関西障害者解放委員会の結成背景としての新左翼運動	2022 年 8 月	障害学会第 19 回大会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「PLAN 75」上映会・トークイベント	衣笠キャンパス以学館 IG102、Zoom ウェビナー	2022 年 12 月	200 名	人間科学研究所、産業社会学部、先端総合学術研究科

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	川端 美季	特集趣旨（【特集 2】情報アクセシビリティのいまとこれから）	立命館生存学研究 6 号	2022 年 8 月
2	川端 美季	シンポジウムのまとめ-Summary of the Symposium-シンポジウム AID(DD)の倫理：出自を知る権利をめぐるこれまでの議論の経緯と今後の課題	医学哲学医学倫理 40 号	2022 年
3	川端 美季	BATHING, CLEANLINESS, AND HOME HYGIENE IN MODERN JAPAN	Association for Asian Studies, Annual Conference	2023 年 3 月
4	川端 美季	日本の銭湯の歴史——大阪を中心に	おさか府民ネット大阪府・市共催講座「おさか銭湯ザ・ワールド～銭湯の歴史・魅力・楽しみ方～」	2023 年 2 月
5	川端 美季	大正時代の崇仁地域の公衆浴場	崇仁～ひと・まち・れきし～vol.14 完成記念講演会	2022 年 11 月
6	大谷いづみ	「PLAN75」上映会&トークイベント報告	立命館大学デザイン科学研究センター	2023 年 1 月
7	大谷いづみ	教育におけるアクセシビリティと障害学生の存在が拓く SDG's 社会の未来	立命館大学デザイン科学研究センター	2023 年 1 月
8	大谷いづみ	「障害のある教員」の職場復帰のプロセスと課題	立命館大学土曜講座 1 月テーマ「障害のある先生が仕事を続けるということ——障害と教育の 10 交わるどころ」	2023 年 1 月
9	大谷いづみ	『PLAN 75』トーク・セッション	『PLAN75』上映会&トークイベント	2022 年 12 月
10	富永 京子	外務省 Discuss Japan 編集委員	外務省	2022 年 4 月
11	小川 さやか	人間について学問が語れること—人類学と精神分析と歴史学の交差点	ゲンロン総会『人間復活』	2023 年 3 月
12	小川 さやか	旅する大学 フィールドワーク実習	旅する大学@糸島	2023 年 2 月
13	小川 さやか	資本主義の未来 Well being を考える 経済界とアカデミアによる学際	日本経済団体連合会セミナー座談会	2023 年 2 月

		研究		
14	小川 さや か	鼎談 4「インフォーマルな領域から立ち上がる居場所・ものづくり・社会」	LIXIL 建築・設計関連コラムまちづくり	2023年1月
15	小川 さや か	小川さやか×岡本祐一郎「現代思想は欲望の資本主義に負けるのか」	文藝春秋ウェビナー	2023年1月
16	小川 さや か	迂回路をさがす～タンザニア商人の商実践から展望するアカデミズムの未来～	学芸ライブ	2023年1月
17	小川 さや か	文化人類学に学ぶ観察力・内省力ー思い込みを手放し常識に囚われない発想をするスキル	AEON リベラルアーツプログラム (全3回)	2022年12月
18	小川 さや か	もっとズルく、もっとアナーキーに。凝固まったルールをほぐす人類学	オンライン配信番組「どうで荘ゼミナール」	2022年12月
19	小川 さや か	数値に換算できない経済ータンザニアの商人を事例に	2022年度 世界と日本を考える真のリーダーを育成する 不識塾	2022年11月
20	小川 さや か	アングラ経済の人類学	早稲田大学エクステンションセンター特別講座	2022年11月
21	小川 さや か	コラボレーションの未来「出会いのデータベース」を構築した先に待ち受けているもの	第8回 SF プロトタイピング	2022年11月
22	小川 さや か	「実践編B:アーティスト創造演習ー装い/身体」	奈良県立大学 実践型アートマネジメント人材育成プログラム「CHISOU」	2022年10月
23	小川 さや か	対談企画 グローバル社会のダイバーシティ&インクルージョンを考える	「グローバル社会のダイバーシティ&インクルージョンを考える」	2022年10月
24	小川 さや か	どう変わる?2030年未来の消費～多様性とデータが作り出すパラドクス社会とは～	(オンライントークイベント) NRI tv asahi INNOVATIVE ONLINE TALK SESSION	2022年10月
25	小川 さや か	今、何をすべきか。それが問題だ	電通ジャパンネットワークアカデミー「DJN Academy」	2022年10月
26	小川 さや か	(トークセッション)「SF的想像力」が描き出す、(わたし)のデジタルツインによる未来	WIRED CONFERENCE 2022/「SCI-FI PROTOTYPING」地球・社会・個人間の調和的な関係が築かれる未来社会の実現に向けて ～デジタルツインコンピューティングの4つの挑戦～	2022年10月
27	小川 さや か	(トークイベント)小川さやか公開インタビュー『屋台と人類学』	(トークイベント)小川さやか公開インタビュー『屋台と人類学』	2022年10月
28	小川 さや か	「世界の知が読み解くコロナ後の時代」【第2部】	朝日地球会議 2022/知の巨人たちと読み解く世界	2022年10月
29	小川 さや か	市場として路上空間を自分たちの場所に転換するータンザニアの事例からー	建築夜楽校 2022・シンポジウム「道/街路/ストリートについてー日本の街路に公共性はあるか?」	2022年10月
30	小川 さや か	人類学的なエスノグラフィーの書き方	「ありふれた臨床」研究会オープンセミナー / 臨床現場を書く 心だけではなく、社会を	2022年9月
31	小川 さや	タンザニア商人の商実践からみたビ	新 青天白雲塾	2022年9月

	か	ジネスの未来		
32	小川 さや か	タンザニアの商人による人生多様化 戦略-人類学から見たビジネスの未 来	大垣共立銀行各務原支店共栄会講演会	2022年9月
33	小川 さや か	DAY2 「社会システム」編	WE Launch Event わたしたちの生存戦略	2022年8月
34	小川 さや か	その日暮らしの生き方から考えるビ ジネスと人類学の未来	時事トップセミナー	2022年7月
35	小川 さや か	技術と人間の調和を超学際的に考え る	第4期立命館グローバル・イノベーション研究 機構 (R-GIRO) 4プロジェクト合同シンポジウム	2022年7月
36	小川 さや か	事業共創が描く未来——食と文化と イノベーション	事業共創が描く未来——食と文化とイノベーシ ョン	2022年7月
37	小川 さや か	人類史的にみた災害・食糧危機に対 するレジリエンス強化のための学際 的研究拠点	人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリ エンス強化のための学際的研究拠点	2022年4月
38	小川 さや か	いかにして人は研究者になるか	【研究部特別企画】いかにして人は研究者にな るか 2022&研究部募集説明会	2022年4月
39	小川 さや か	(対談) 小川さやか×比嘉夏子「人 類学はビジネスに役に立つ!?—— 『エスノグラフィ・プロトタイプビ ング』の可能性を探る」	ゲンロンカフェ	2022年4月
40	長瀬 修	“ East Asian Experiences and JSDS”	Society for Disability Studies Annual Conference 2022	2022年4月
41	勝又 栄政	“人と違う”自分と生きる～トランス ジェンダー から見える世界～	株式会社LITALICO パートナーズ	2023年3月
42	勝又 栄政	【第1回 タテヨコナメおしゃべ り会】トランスジェンダー勝又さん と話す『価値 観のズレってどうしてる?』	ポーラ・オルビスホールディングス	2023年3月
43	勝又 栄政	トランスジェンダーの視点から考え る～親子と共生～	日本ソーシャルワークリーグ	2023年3月
44	勝又 栄政	「『親子は生きづらいー トランス ジェンダー“をめぐる家族の 物語』」	名取市ナイトライブラリー	2023年3月
45	勝又 栄政	「『親子は生きづらいー トランス ジェンダー“をめぐる家族の物 語』～ゆるっと学べるにじカフェ～」	名取市行政主催	2023年3月
46	勝又 栄政	”性の多様性とは?”を仕事にすること	私立 正則高校進路セミナー	2023年1月
47	勝又 栄政	LGBTQ+の現状ー生きづらさの社 会的背景ー	宮城教育大学	2022年12月
48	勝又 栄政	LGBTQ+対立側の背景/多様性を尊 重した教育・支援とは	宮城教育大学	2022年12月
49	勝又 栄政	トランスジェンダーから見る”共生”	文教大学	2022年11月
50	勝又 栄政	性の多様性とは何か?～寺院・僧侶 ができること～	東京別院愛宕真福寺	2022年11月
51	勝又 栄政	性別と社会	桜美林大学	2022年11月
52	勝又 栄政	性の多様性とはなにか? ～ LGBTQ+から見る個を尊重する視 点～	台東区立台東育英小学校	2022年9月
53	勝又 栄政	～個に向き合う教育・支援とは～	墨田区教育委員会	2022年8月
54	勝又 栄政	LGBTQ+を生きづらくさせている ものはなにか～誰にとっても生	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2022年7月

		きやすい社会の姿とは～		
55	勝又 栄政	～LGBTQ+の視点から、支援を考える～	社会福祉法人福田会：児童養護施設広尾フレンズ	2022年7月
56	勝又 栄政	自分に合う生き方を選択することーLGBTQ当事者の視点から	笛吹市立春日居中学校	2022年7月
57	勝又 栄政	多様性を尊重するとは何か？～LGBTQ+の視点から、そのひとりに寄り添う支援を考える～	株式会社LITALICO パートナーズ：LITALICO ジュニア	2022年7月
58	勝又 栄政	～LGBTQ+の視点から、支援を考える～	山梨県笛吹市養護教員研修会	2022年7月
59	勝又 栄政	誰にとっても居心地の良い社会に向けてーLGBTQの視点から	東京学芸大学附属国際中等教育学校：ソーシャルアクションチーム	2022年6月
60	栗川 治	「姉崎惣十郎と新潟点字図書館史」	メディア・オンエアー	2023年2月
61	増田 洋介	研修会：現代の課題（孤独死・死生観）について考える	千葉県生涯大学校 東葛飾学園 健康・生活学部 社会生活科	2022年11月
62	増田 洋介	研修会：現代の課題（孤独死・死生観）について考える	千葉県生涯大学校 東葛飾学園 健康・生活学部 社会生活科	2022年6月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	立岩 真也	生を辿り途を探すー身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	代表
2	立岩 真也	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担
3	岸 政彦	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
4	川端 美季	近代日本における清潔規範の創出と展開	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
5	富永 京子	生を辿り途を探すー身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
6	富永 京子	「社会意識の分断」に着目した政治行動の計量的解明と新たな政治社会学モデルの構築	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
7	富永 京子	東北アジアにおける戦後日本思想ー加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸として	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
8	美馬 達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	代表
9	美馬 達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	基盤研究(B)	2021年4月	2023年3月	分担
10	美馬 達哉	脳卒中超回復者の脳再構成を静的・動的磁場で誘発される脳波変調で解明する	新学術領域研究(研究領域提案型)	2022年4月	2024年3月	代表
11	美馬 達哉	脳卒中者の機能再建を可能とするアンサンブル脳刺激法の創成	挑戦的研究(萌芽)	2021年4月	2023年3月	代表
12	小川 さやか	アフリカ諸国における暗号通貨を利用した国際取引に関する人類学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	研究代表者
13	小川 さやか	インフォーマル化するアジア：グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ	基盤研究(A)	2019年4月	2025年3月	研究分担者
14	小川 さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリ	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	研究分担

	か	アンス探求による人道支援・開発ギャップの克服				者
15	後藤 基行	20世紀日本の医療・社会・記録—医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求	基盤研究(A)	2021年4月	2025年3月	研究分担者
16	後藤 基行	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	研究分担者
17	後藤 基行	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	研究分担者
18	後藤 基行	医療アーカイブズの構築と利用環境の整備に関する先導的研究—九州大学診療録を材料に	挑戦的研究(開拓)	2020年7月	2023年3月	研究分担者
19	松原 洋子	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	研究代表者
20	宮脇 正晴	パブリック・ドメインの醸成と確保という観点からみた各種知的財産法の横断的検討	基盤研究(S)	2018年6月	2023年3月	研究分担者
21	栗川 治	「障害のある教員の当事者運動史の研究—1970年代以降の日本の当事者団体を中心に」	日本学術振興会特別研究員奨励費	2022/04	2023/03	代表
22	姫野 友紀子	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021/07/30	2026年3月	研究分担者

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	富永 京子	グローバル化による異文化相互理解の契機としての「食」	食生活研究会	2021年4月	2026年3月	代表
2	富永 京子	社会的権利要求に対する揶揄・冷笑・攻撃	大林財団	2022年4月	2023年3月	
3	富永 京子	若年自営業者による空き家・空き店舗の活用による都市コミュニティ形成の研究	大林財団	2022年4月	2023年3月	

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太朗	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本